

■発表テーマ	介護現場のICT化 導入と発展
■副題	ケアサポートシステム（CSS）導入による働き方の変化
■法人・事業所名	社会福祉法人 愛生館 特別養護老人ホーム ひまわり
■職種・発表者 介護福祉士 松本圭介	介護福祉士 宮西愛加 伊藤寛太
	機能訓練指導員 柳野昭彦
<p><取り組んだ課題></p> <p>法人内別施設が、新規開業に合わせてケアサポートシステム(以下 CSS)が導入されて入居者にも従業員にもよい環境を構築できたことを受けて、当施設でも導入される事となった。前例と違い既存のシステムから新しいシステムに切り替わることで、従業員の戸惑いもある中で当施設の従業員の働き方にどのような変化があったか調査したため報告する。</p> <p><具体的な取り組み></p> <p>①夜間巡視方法の見直し 夜間巡視を直接的に訪室する巡視でなく、CSSのモニターもしくはスマートフォンによる間接的な常時巡視に変更した。尚、体位変換やオムツ交換の必要な入居者には直接訪室してのケアを継続した。</p> <p>②CSSメーカーとの定期報告会を実施 毎月CSSメーカーとの定期報告会を実施し、CSSの稼働状況について情報交換を行った。</p> <p>③従業員アンケートの実施 現場の従業員に、CSS導入によりどのような変化があったかのアンケートを実施した。</p> <p><活動の成果と評価></p> <p>①業務の効率化 夜間巡視の数が減少し、不要な駆けつけがなくなった。そのことにより入居者の安眠に繋がり、従業員も業務を効率的に実施することができた。</p> <p>②根拠に基づいたケアの実施 CSSの稼働状況のデータを基に、その人に合わせたケアを提供できるようになった。また、転倒事故も実際の転倒シーンを観て対策を取れるようになった。</p> <p>③従業員の負担の軽減 従業員アンケートの結果。業務負担が減ったと回答した人は69.5%となった。特に夜間従事者から負担が減ったとの声が挙がっていた。</p> <p><今後の課題></p> <p>CSS導入により従業員の働き方は向上した。今後はこの技術をさらなるケアの向上にも活用していく必要がある。具体的には現状ではCSSの通知のリアクションが個々の判断に委ねられている所を、ユニットとして統一し、ユニットとしてのケアの向上を図っていきたい。</p>	